

令和元年度 嬉野市教育委員会 活動状況評価シート

教育委員会の活動状況		教育委員会における自己評価				
具体的活動		評価	項目	項目ごと実績・成果・評価	課題・問題点	改善点
具体的 施策	(1)教育長としての役割等について	B	・市長部局で作成する教育大綱について、地域の実情に合った計画となるよう意見を述べる。 ・本市教育推進のため、教育政策等を立案し実践化する。 ・市長に対し、教育行政の課題等について情報提供を行う。 ・教育委員へ教育行政施策の積極的提言と周知の徹底を行う。	・前回作成された「嬉野市教育大綱」に従って、本市の実情に合った教育計画を推進中である。 ・教育政策の立案として、大野原小中学校の「通学・留学」制度の導入により、教育の活性化の提言を行った。 ・市長に対して、「学力の現状と教育課題」について随時情報を提供している。 ・教育委員へ教育情報の提供を積極的に行っている。	・嬉野市教育大綱の見直しを行うため「総合教育会議」を計画的に実施することが課題である。 ・大野原小中学校の教育の活性化のために、教育委員会として（教育長・教育委員）がどのように動くべきか課題である。	・総合教育会議の実践化にむけ、市長部局との連携に取り組む。 ・大野原小中学校の教育の活性化を目指し取り組む。
	(2)教育委員としての役割について	B	・教育大綱作成について、教育委員としての立場で意見を述べる。 ・教育行政施策全般についての問題点や課題を指摘し、自己の考え方や意見・思いを述べると共に、教育行政全般についてチェックを行う。 ・社会教育委員と教育委員との懇談会を実施して、教育委員一人一人の考えを述べあい相互の理解を深め、地域の抱える課題の把握に努め、民意を反映した教育行政の一翼を担う。 ・研修会等を通じ、教育課題について把握し、委員としての専門性を習熟し、資質と能力の向上に努める。	・前回作成された「嬉野市教育大綱」に従って、教育委員としての立場で活動している。 ・定例教育委員会議等で、提案される施策について、教育委員個人の考えや思いを述べる事が出来ている。 ・社会教育委員との懇談会に参加して意見を述べている。 ・教育委員として各種の研修会に参加している。	・総合教育会議の中で、教育委員として積極的に意見を述べる事が課題である。 ・社会教育委員との懇談会で、すべての分野において常に積極的な意見を述べる事が課題である。	・総合教育会議において、教育委員が日頃から関心を持っている課題について、意見を述べることを実践化する。 ・日頃から教育委員としての意識を持ち、教育行政全般について市民の代弁者に努める。
	(3)定例教育委員会会議の公開性の拡大と充実	B	・定例教育委員会への傍聴を次のように拡大する。 ①市役所職員と新規採用職員への傍聴依頼 ②教職員への傍聴依頼 ③社会教育委員へ傍聴依頼 ④CS運営委員へ傍聴依頼 ⑤PTA役員へ傍聴依頼 ・教育委員会終了後に傍聴者から感想及び教育課題についての意見を求め、必要により意見交換をする。	・市役所職員並びに新規採用職員の傍聴を実施した。 ・教職員への傍聴を実施した。 ・社会教育委員、CS運営委員、PTA役員への傍聴依頼は実施できなかった。 ・傍聴者からは、教育委員会の活動や保護者として、意見や感想を聞くことができた。	・市役所内で、それぞれ業務多忙の中毎回傍聴依頼することが難しい。 ・「働き方改革」の流れの中で、傍聴性の導入を実施することが多忙化を招いているのではという問題点がある。	・定例教育委員会傍聴については、市職員や新採職員の研修の一環として取り組む。 ・外郭団体の傍聴者について広報を行い傍聴の拡大を図る。 ・出張定例教育委員会をCS運営委員会等の前後に実施し、傍聴する機会を設ける。
	(4)教育委員への迅速な教育情報の提供や会議の招集	A	・教育委員に学校教育・社会教育並びに教育総務に関する情報を年間を通して迅速に提供する。 ・教育委員会会議を定例的に開催し、市役所以外の公共施設等で開催する。	・定例教育委員会時に予算や補正予算の情報、議会での一般質問事項や、学校施設の改修状況など、国・県の動向を含めて説明を行った。また、社会教育分野においても事業計画を策定し、その都度情報の提供を行った。 ・市民センターや学校での定例教育委員会を実施することができた。	・原則として月に1回の定例教育委員会を目指しているが、議会等の都合により実施できない月もあった。	・緊急案件については、電話等で事前承認を得るなど情報提供の迅速化に努めた。 ・臨時教育委員会を実施し、委員同士の意思疎通を図りながら不足分を補った。
	(5)教育委員会と学校の協働意識高揚と課題の共有化	A	・「教育委員と教職員と語る会(トーク会)」で教職員との意見交換を実施し、教育現場の声を反映した教育行政の推進を図る。 ・「教育委員と教職員と語る会(トーク会)」のより一層の充実を図るため、教育委員も、トーク会のグループ(班)に参加し意見を述べる。 ・校長先生の知恵袋事業のプレゼンテーションへの参加や、成果発表会に出席し、学校の自立的経営について意見を述べる。 ・学校訪問時の「教育委員と教職員と語る会(トーク会)」で、市長部局の職員等の出席を求め、教育現場の声やトーク会出席者の意見を市の行政に反映させる。	・今年度5校の教育委員会単独学校訪問を行い、出前トーク会を実施して意見交換を行った。出席者は学校職員、学校運営協議会委員、PTA会長、母親部長、西部教育事務所指導主事、教育相談員、早期コーディネーター、地域コミュニティ会長などで会議後には各教育委員のコメントを述べた。また、地域からの意見を伺い、見えない情報の提供を得ることができた。 ・校長先生の知恵袋事業のプレゼンテーションへの参加や、成果発表会に出席し、校長の特色ある学校経営について理解を深めた。	・関係団体代表の参加調整が課題であり、議題等についても事前配布するなど、出席しやすい情報提供を行うなどの体制作りが必要である。 ・教育委員会でも、校長先生の知恵袋事業は特色ある事業であり、限られた予算の中で学校経営の特色と充実を求める。	・事前の日程や議題等について早期に周知する。 ・議題によっては他の部署から協力を得られるように調整を図る。 ・今後も継続しながら更なる予算の獲得に努める。

<p>評価委員からの指摘事項・意見</p> <p>① (1)について、大野原小中学校の「通学・留学」制度の取組は、大変興味深いものです。成功の鍵は、市長部局との連携及び長崎県の市町村との協議にあると思います。</p> <p>② (2)について、総合教育会議や社会教育委員との懇談会では、議題の内容を絞れば、意見が出し易くなると思います。</p> <p>③ (3)について、定例教育委員会の傍聴については、日程の都合もあると思うが、学校運営に関わる新採管理職や主幹教諭・指導教諭に実施してください。また、ホームページに定例教育委員会の議事録だけでなく開催通知を掲載し、広報をはかってはいいかがでしょうか。</p> <p>④ (4)について、事前の打ち合わせや緊急な事案が多いようであれば、タブレット等の活用を検討することも一つの方策だと思います。</p> <p>⑤ (5)について、教育委員会と学校の協働意識高揚の取組はユニークで教育活動の活性化につながっていると思います。</p>	<p>評価結果(段階)</p> <p>A</p>	<p>指摘を受けての改善点</p> <p>① 大野原高原学園の「通学・留学」制度の取組については、市長部局や長崎県側の市町へのPR活動を重点に取り組む。</p> <p>② 総合教育会議については、教育大綱作成の礎になるものであり、議題を絞り込みによって実践化する。</p> <p>③ 定例教育委員会の傍聴については、学校運営にかかわる職員(主幹・指導教諭)に拡大する。さらに、開催通知をホームページ等で広報する。</p> <p>④ 緊急な事案が多発する傾向が見られるようになれば、ICT等の活用を検討することとし、当分は現状の対応で行う。</p> <p>⑤ 改善点に示している内容について取り組む。</p>	<p>評価4段階</p> <p>A 達成(80%以上)</p> <p>B ほぼ達成(51~79%)</p> <p>C やや不十分(50~21%)</p> <p>D 不十分(20%以下)</p>
--	--------------------------	---	--